



フクジュソウ *Adonis ramosa*

も く じ

<植物研修報告>埼玉県内の特定外来植物について・・・・・・・・・・ P. 2-3

活 動 レ ポ ー ト

総会報告・研修会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4

第1回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5

第2回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 6

第3回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8

<植物研修報告>

平成 27 年度「自然の博物館友の会」話題提供より

埼玉県内の特定外来植物について

矢島民夫

はじめに

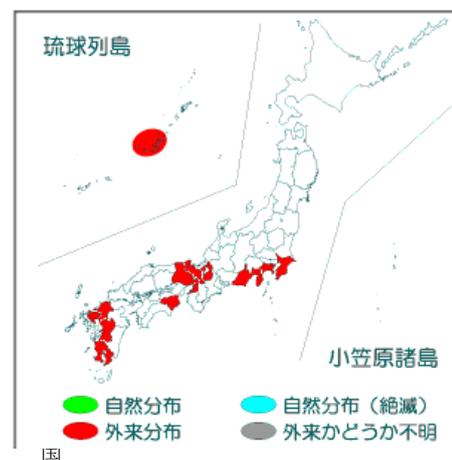
特定外来植物とは侵略的外来種(その導入もしくは拡散が生物多様性を脅かすもの)の中で、規制・防除の対象とする植物について、環境省から 2005 年度以後「特定外来生物による生態系等に係る被害防止に関する法律」で指定された植物である。2005 年に 3 種(1~3)が一次指定され、その後、2006 年に 9 種が二次指定された。さらに 2014 年にオオバナミズキンバイ(13)が追加され 13 種となっている。このうち「埼玉県に生育が確認されている種」は 9 種である。これらを中心に県内の生育状況を報告する。

1) ナガエツルノゲイトウ (ヒユ科) *Altenanthera philloxeroides* Griseb.

2013 年三郷市の江戸川河川敷内でホソバツルノゲイトウ (*A. denticulata*) とともに生育が確認された(矢島)。しかし、翌年にはホソバツルノゲイトウが優占するようになり、現在では本種がさらに分布を広げていると思われる。(両種とも埼玉県内新分布)



ナガエツルノゲイトウ 2013. 9. 30



国立環境研究所侵入生物データベースより

2) ブラジルチドメグサ (セリ科) *Hydrocotyle ranunculoides* L. f.

現在まで県内の生育は報告されていない。近縁のウチワゼニゴケ *H. verticillata* の移出が報告されている。アクアリウムプランツとして販売されたこともあり移出する危険性がある。

3) ミズヒマワリ (キク科) *Gymnocroronis spilanthoides* DC.

県内では 1995 年熊谷市(旧妻沼町)の記録が初めてで、蓮田市(1999)元荒川河川敷でも記録された。前回のレッド調査では 17 件の報告があり、急激に分布を拡大しており駆除対策は急務である。本種はアサギマダラ(昆虫・チョウ類)を強く誘引することで注目されている。▲印 2005 年以前のデータ、●印 2008 年~2010 年のデータ



4) アレチウリ (ウリ科) *Sicyos angulatus* L.

旧版植物誌(1962)には分布の記録がない。最初の記録は川越市(1972)入間川堤防で、その後入間市(1975)に報告があり、その記述の中には戦後基地付近に見られたとある。県北では寄居町(1975)、県南ではさいたま市(旧与野市(1978))に報告されている。その後、

県内各地の河川敷や土手に急激に増加している。全県的な駆除は不可能に近い。

5) **オオフサモ** (アリノトウグサ科) *Myriophyllum brasilense* Cambess.

旧版植物誌(1962)には分布の記録がない。1998年版植物誌では3件の報告が見られる。前回のレッド調査では17件の報告がある。現在、用水など小河川内に急激に増加し、在来種水草類の脅威となっており、駆除対策は急務である。



6) **オオカワヂシャ** (ゴマノハグサ科) *Veronica angallis-aquatica* L.

旧版植物誌(1962)には分布の記録がない。1998年版植物誌では大里郡や児玉郡内の荒川水系を中心に一部下流域に分布している。前回のレッド調査で加須・中川低地や台地帯から丘陵帯の河川に分布が拡大している。全県的な駆除はすでに不可能に近い。



7) **オオキンケイギク** (キク科) *Coreopsis lanceolata* L.

観賞用に栽培されていたが、道路工事後の法面緑化目的の使用により、各地に野生個体が見られるようになった。1998年版植物誌で秩父地方の低山帯を中心に分布しているが、前回のレッド調査では加須・中川低地から低山帯にかけて道路わきに分布が見られる。



8) **オオハンゴンソウ** (キク科) *Rudbeckia laciniata* L. var. *laciniata*

園芸植物として渡来したため、時に人家近くに見られる。湿った草地や河川敷に群生するとされる。本県では群生するところは確認されておらず、現在のところ緊急の脅威はない。

9) **ナルトサワギク** (キク科) *Senecio madagascariensis* Poir.

前回までの調査で県内の生育は確認されていない。

10) **ボタンウキクサ** (サトイモ科) *Pistia stratiotes* L. var. *cuneata* Engler

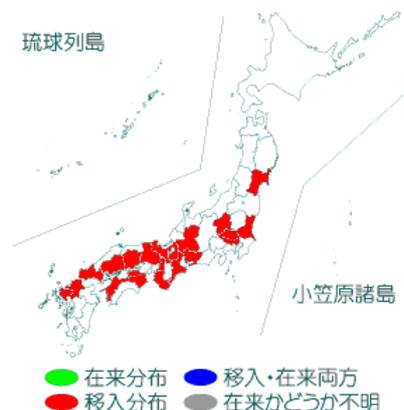
1998年版植物誌には2カ所の生育記録がある。前回のレッド調査でも2件の報告があるが、今のところホテイアオイほど大群落をつくることはなく、特に緊急性はない。

11) **ヒガタアシ** (イネ科) *Spartina anglica*

現在まで国内、県内とも生育は報告されていない。愛知県等では別種の *A. alterniflora* Loisel. の生育が確認されている。

12) **アメリカオオアカウキクサ** (アカウキクサ科) *Azolla cristata* Kaulf.

Azolla 属は浮游性の水生シダ植物で、池沼や水田などに生育する多年草である。形態による同定が難しく種の確定ができない。県内のあちこちで報告されているが在来種の *Azolla* 属はすでに見られず、ほとんどが本種かその雑種と思われる。(右分布図)



13) **オオバナミズキンバイ** (アカバナ科)

Ludwigia grandiflora L.

現在まで県内の生育は報告されていない。滋賀県琵琶湖では大群落を形成し、駆除が行われている。

活 動 レ ポ ー ト

【総 会】

日 時：平成 27 年 5 月 31 日（日）10:00～12:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 51 名中 39 名（内書面による出席 14 名）

当日は、代表理事牧野彰吾の体調不良により副代表理事矢島民夫が議長を務め、平成 26 年度事業報告、決算報告、平成 27 年度事業計画、予算案などが審議されました。午後

（講演会）「埼玉県の植物における新分類体系上の注意点」と題して熊谷西高校 三上忠仁 会員より講演がありました。

総会に先立ち「理事会」が下記のように開催されました。

日 時：平成 27 年 5 月 31 日（日）9:10～10:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：理事 11 名中 7 名（内書面による出席 1 名）

平成 26 年度事業報告、決算報告、平成 27 年度事業計画、予算案などが審議されました。

【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：平成 26 年 5 月 31 日（日）13:30～15:00

場 所：さいたま市浦和区北浦和 カルタスホール第 1 会議室

出席者数：会員 37 名

- 1 平成 26 年度希少野生動植物種選定調査(植物)報告書
- 2 平成 26 年度会計報告、平成 27 年度予算案
- 3 平成 27 年度に行うべき業務の打ち合わせを行う。

調査する希少野生植物種の種類と調査報告書の記入について説明がありました。

【研修会報告】

2016 年 2 月 28 日（日）9:00～12:00 に所沢市下山口トトロの森 32 号地で、東京生物研究会・埼玉生物研究会の合同研修会において講師の一人として参加したことを報告する。途中から参加するもの、途中で帰るものといった流動的な参加形態であったが、若手の教員を中心としてほぼ 30 名の教員が参加した。午前は雑木林の方形区調査、午後は林道沿いの植物観察、狭山湖の水鳥観察を行った。

コナラの二次林に 10m×10m の方形区を張って、毎木調査を行った。各班 7 名ほどの教員がグループを作り、5カ所の方形区でそれぞれ植生調査を行った。冬芽の観察をしながら同定を行い、毎木調査を行った。参加者の中には、子供連れの教員も多く、子供を背負いながら、あるいは遊びまわる子供を追いかけながらの和やかな調査会であった。

調査時には落葉しているものも多く、冬芽や樹皮観察の研修にもなった。

林道沿いにおける植物観察では、樹木の枝ぶりがよく見えることもあり、アカマツ林からコナラ林への変化を見ることができた。陽樹のアカマツの枝が徐々に、陰樹のコナラの枝に負けて落としていくさまを観察することができた。また、枯れて幹だけ残るアカマツの木も見ることができた。また、沢沿いでは多くのシダ植物を観察することができた。

この研修会で増補版も7冊ほど購入希望があり、お渡しすることができた。冬芽の観察資料にも役立つもので、好評を得た。

昼食後、トトロの森財団のメンバーでもあり、東京都生物教育研究会の関口氏からも、トトロの森1号地などについての管理状況の説明があった。この森ではタシロランが観察される情報も彼から得ることができた。後日調査に行きたい。来年度に関してはやはり同様な植物群落の調査を年に2～3回実施しようということになった。その後、狭山湖まで雑木林の中を移動し、水辺の野鳥、カモやカイツブリ類の観察会を行い、15:00過ぎに解散となった。

初心者が多く、生物の教科書の生態分野が記憶しなければならないつまらない分野という認識の参加者が多かったが、改めて生態分野の面白さを知っていただけた研修会となった。（文責 三上忠仁）

【第1回 春の公開講座】

日 時：平成27年4月6日（月）9:30～15:00

場 所：寄居町金尾地区

参加人数：30名（指導者：高橋重男・矢島民夫理事） 天気：晴れ

活動内容：波久礼駅から金尾山の早春植物観察

前日まで危ぶまれていた天候も、4月6日の当日は青空が見える程に回復した。

寄居町の西部、金尾集落の入り口に建つ東屋にNPO本部から矢島さんを迎え30名の人達が集合した。これからカタクリ群落を観察し乍ら金尾山に登ろうという訳である。

先ず荒川に沿って伸びる河岸段丘の中腹を、点在する民家の屋根を見下ろし乍ら上流へと進む。段丘の斜面にはノダフジやアケビの蔓が垂れ下り、アケビには房状の花も見える。斜面に生育するアズマネザサの間には、コモチマンネングサ、クサノオウの花、ノビルやツルボの新芽も顔を出し、スノードロップや水仙の花も混じって咲いている。



集落を抜けると巨大なアカマツ林となりやがてコナラを優占種とする疎林となる。エゴノキ、ハウノキ、アオハダ、マユミ、タラノキなども混じっている。林床にはモミジイチゴの枝に純白の花が下がっている。

カタクリ群落は金尾山の北側斜面に広がる数アールの広大な面積で、今年には既に花期は過ぎていたが、咲遅れの花を見付け参加者の皆さんに P3+3 A3+3 G(3)の花の構造を説明する。ここで休憩をとり、次は南斜面に移動する。そこは樹齢100年に近いヤマツツジの大群落で、林床にはセンボンヤリの花、セントウソウ、アキカラマツの幼株が点在している。私達はヤマツツジの間をくぐり抜けながら山頂を目指し、そこで昼食となった。



カタクリ



昼食後は可憐なセンボンヤリの花、ミツバツツジや気の早いヤマツツジの花を見乍ら自動車道路まで下山する。駐車場からはニリンソウの花、カタクリ群落を観察し、金尾集落へと降りる。途中人家に植えられた満開のシダレザクラや水芭蕉の花を目にすることができた。

(文責：高橋重男)

【第2回 初夏の自然観察会】

日時：平成27年5月23日（土）

場所：飯能市・吾野「東郷神社境内」

参加者：14名（指導者：山下 裕理事）

天気：晴れ

活動内容：東郷神社境内の植物観察

飯能市吾野、東郷神社内で植物観察会を実施しました。境内は公園のようになっており、石段はありますが歩きやすいです。アクセスは、西武秩父線・吾野駅から徒歩20分です。ここは秋の紅葉でよく知られているところで、境内にはイロハモミジやオオモミジが多くみられます。今回は初夏なので、スギ林の中には、シャガの淡い青紫色の群落が見事でした。花期は4月～5月で、学名を *Iris japonica* といいますが、中国から渡来し野生化したものと考えられています。

ウリノキの白い花が、葉の陰にぶら下がって、恥ずかしそうに咲いていたのが印象的でした。参道には、マルバウツギの白い花、ガクウツギの白い装飾花などが目に入りました。



ウラジロ



また、草本では、タツナミソウやオカタツナミソウが咲いていました。薄暗いところでは、シダの仲間が多く、ベニシダやヤマイタチシダなどとともに、少し明るくなった崖沿いには、ウラジロやホラシノブが見られました。この地域は山地ですが、タブノキの巨木やウラジログシの群落など、暖地性の植物も近くに見られます。秋の紅葉の季節にはまた違った雰囲気を出してくれると思います。

(文責：山下 裕)

【第3回 野外観察会】

日時：平成28年3月28日(月)

場所：川越市内

参加者：24名 (指導者：山下 裕理事)

天気：晴れ時々曇り

活動内容：巨木巡り

今回は志向を変え、都市部の巨木巡りを企画しました。ここ川越市は、巨樹・古木が町の中心に多く残っていて、散策がてら気軽に歩くことができます。ただし、「小江戸・蔵の町」を打ち出し、観光客を誘致していますので、土曜日、日曜日は混雑します。よって今回は平日の月曜日に実施してみました。

当日は、天気予報では、曇りのち雨で午後雷雨になるとので、実施にあたってすこし気をもみましたが、薄日のさすさわやかな天気、絶好の観察会日和でした。事前に各ポイントの巨樹・古木についての説明文を用意し、その場所に到着したら、それを読み上げ、解説しました。以下の10ヶ所を巡りました。

- ① 八幡神社の縁結びのイチョウ
- ② 中院のシダレザクラ
- ③ 三変稲荷神社のムクノキ
- ④ 喜多院東照宮のエドヒガン
- ⑤ 富士見櫓跡のクスノキ
- ⑥ 三芳野神社のクスノキ
- ⑦ 県立川越高校のクスノキ
- ⑧ 氷川神社のケヤキ
- ⑨ 鴉山神社のケヤキ
- ⑩ 出世稲荷神社のイチョウ



桜の開花宣言が少し前にあり、今は、三分咲きから五分咲きぐらいですが、ほんのりとしたピンク色が綺麗でした。夜には雷雨を伴う豪雨でした。この頃の天気予報はよく当たります。

(文責：山下 裕)

【あ と が き】

皆様の努力で作られた「フィールドで使える 図説植物検索ハンドブック」は本屋さんでも手に入りにくい状態になり、そこで「さきたま出版会」から重版の打診がありました。せっかくの機会なので検索表の訂正や図版の差し替え、補充をして改訂版を作成することになりました。始まると種の増加も検討され結果2824種から2882種に増えることになり、大幅な改訂作業が始まりました。本の名前も増補改訂版「フィールドで使える 図説植物検索ハンドブック」となり、予想もしなかった仕事に嬉しいような大変な1年でした。

また、本年も会報「さいたま植物通信42号」を発行することができました。「さいたま植物通信」は毎年2回の発行を考え予算は計上していましたが、今年度も1回のみ発行となりました。当面は年2回の予定です、長く続くようみなさんの寄稿をお待ちしています。

<表紙の写真>

写真は秩父市が文化財に指定している、浦山地区の自生地には咲いているフクジュソウである。フクジュソウは秩父地方では古くから栽培されていたようである。このためフクジュソウの自生地と確信できる場所は限られている。近年フクジュソウがミチノクフクジュソウ (*Adonis multiflora*) とエダウチフクジュソウ (*A. ramosa*) に分けられた。千葉や神奈川ではミチノクフクジュソウとされ、埼玉と東京、群馬ではフクジュソウとされている。埼玉のフクジュソウがどちらなのか確認する必要があり、今年も調査が続けられているところである。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース NO.9

2016年3月31日発行

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857

発行所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857